

# 名古屋市感染症発生動向調査情報

2018年(平成30年)第10週(2018年3月5日~3月11日)

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部) 2018年3月14日作成

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0.html>

## ◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

- インフルエンザの定点当たり患者報告数は、前週の15.1人から12.2人に減少した。
- 水痘の定点当たり患者報告数は、前週の0.1人から0.2人に増加した。
- RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は、前週の0.1人から0.2人に増加した。
- 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は、前週の2.6人から3.4人に増加した。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は、前週の1.1人から1.2人になった。
- 突発性発しんの定点当たり患者報告数は、前週の0.1人から0.2人に増加した。

〔1類~5類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2018年 第10週	2類	結核	7	<ul style="list-style-type: none"><li>• 女性、91歳、結核性胸膜炎</li><li>• 男性、73歳、肺結核</li><li>• 女性、83歳、肺結核</li><li>• 女性、19歳、肺結核</li><li>• 男性、29歳、無症状病原体保有者</li><li>• 男性、41歳、無症状病原体保有者</li><li>• 男性、66歳、無症状病原体保有者</li></ul>
2018年 第10週	5類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	<ul style="list-style-type: none"><li>• 女性、78歳、菌検出検体：血液</li><li>• 男性、76歳、菌検出検体：髄液、血液</li></ul>
2018年 第10週	5類	梅毒	3	<ul style="list-style-type: none"><li>• 女性、31歳、早期顕症梅毒(1期)</li><li>• 男性、40歳、早期顕症梅毒(1期)</li><li>• 男性、44歳、無症状病原体保有者</li></ul>

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった 1 類から 5 類全数報告感染症。

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2018年 第9週	2類	結核	1	• 女性、78歳、肺結核
2018年 第9週	5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	• 男性、81歳、菌検出検体：喀痰、菌種： <i>E.aerogenes</i> 、感染原因：以前からの保菌
2018年 第9週	5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	• 女性、31歳
2018年 第9週	5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	• 女性、71歳、菌検出検体：血液
2018年 第9週	5類	梅毒	1	• 女性、19歳、無症状病原体保有者
2018年 第8週	5類	百日咳	1	• 女性、57歳、検査方法：抗体の検出、感染地域：国内（都道府県不明）

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

〔2018年1類～5類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾患	累計
1類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2類感染症	急性灰白髄炎	0
2類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	97 (23) [0] [0] [1]
2類感染症	ジフテリア	0
2類感染症	重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る)	0
2類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
3類感染症	コレラ	0
3類感染症	細菌性赤痢	1

3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1 (0)
3 類感染症	腸チフス	0
3 類感染症	パラチフス	0
4 類感染症	E 型肝炎	1
4 類感染症	レジオネラ症	3
5 類感染症	アメーバ赤痢	5
5 類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	10
5 類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	5
5 類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2
5 類感染症	後天性免疫不全症候群	9(5)〈0〉【0】
5 類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	18
5 類感染症	水痘（入院例に限る）	2
5 類感染症	梅毒	39 (11)
5 類感染症	百日咳	13

累計は 2018 年第 1 週からの診断週による累計、( ) 内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[ ] 内は疑似症累計数を再掲、【 】 内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕 内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉 内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。

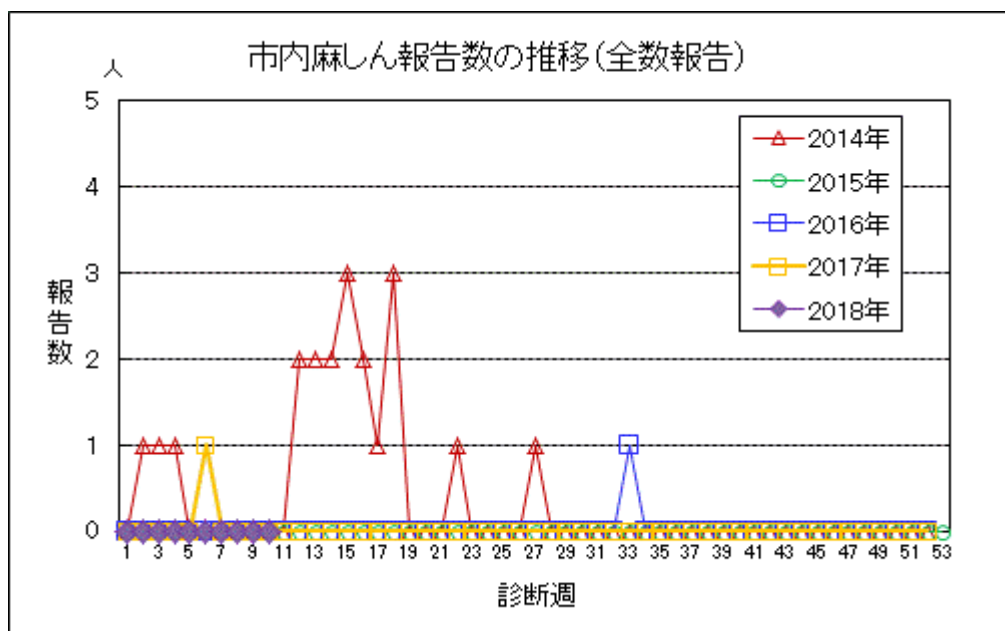
対象疾患が多いため、4 類及び 5 類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

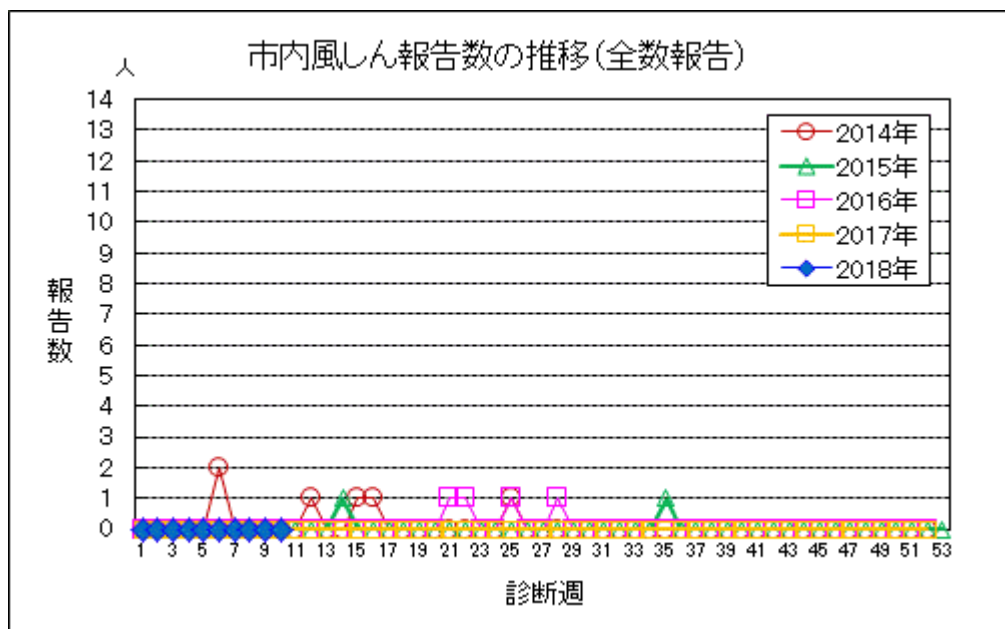
#### 〔愛知県麻しん・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻しん・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻しん・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先（愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/mssl/mssl.html>）をご覧ください。

〔名古屋市の麻しん報告数〕



〔名古屋市の風しん報告数〕



〔定点医療機関からの情報〕

インフルエンザA型7人、B型5人	定点医療機関（千種区）
インフルエンザA型5人、B型14人	定点医療機関（千種区）
インフルエンザA型14人、B型3人	定点医療機関（千種区）
ヒトメタニューモウイルス感染症3歳	定点医療機関（千種区）
インフルエンザA3名、インフルエンザB4名	定点医療機関（東区）
インフルエンザA型：3名、B型3名	定点医療機関（北区）
インフルエンザ：A型2名、B型5名。ヒトメタニューモウイルス感染症3名（1～5歳）	定点医療機関（西区）
インフルエンザA型9人・インフルエンザB型10人	定点医療機関（中村区）
インフルエンザA型2人・インフルエンザB型14人	定点医療機関（中村区）
インフルエンザA型5人・インフルエンザB型9人	定点医療機関（中村区）
インフルエンザA型16人・インフルエンザB型11人・臨床診断1人	定点医療機関（中村区）
インフルエンザA型：10名、B型：4名	定点医療機関（中区）
インフルエンザA型：2名、B型：4名	定点医療機関（中区）
インフルエンザA型：1件、インフルエンザB型：6件	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザA型：2件、インフルエンザB型：3件	定点医療機関（昭和区）

インフルエンザA型：6件、インフルエンザB型：6件、不明：1件	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザA型：2名、インフルエンザB型：2名	定点医療機関（昭和区）
インフルエンザA型2人	定点医療機関（瑞穂区）
インフルエンザA型：1名 ・ インフルエンザB型：10名	定点医療機関（熱田区）
インフルエンザB型：4名	定点医療機関（熱田区）
インフルエンザA型2名、インフルエンザB型2名	定点医療機関（港区）
インフルエンザA型1名、インフルエンザB型3名	定点医療機関（港区）
インフルエンザは、A型6名 B型4名です。	定点医療機関（南区）
インフルエンザは、A型(男性10名 女性10名)B型(女性2名)です。	定点医療機関（南区）
インフルエンザは、4名すべてB型です。	定点医療機関（南区）
インフルエンザB型2名	定点医療機関（緑区）
インフルエンザA型4名 B型3名 水痘は2名ともワクチン接種2回摂取	定点医療機関（緑区）
A型11名、B型6名 合計17名	定点医療機関（名東区）
B型インフルエンザのみ7名	定点医療機関（天白区）
インフルエンザA11名・インフルエンザB12名	定点医療機関（天白区）

上記、2018年第10週の定点医療機関からのコメント情報を集計したところ、

インフルエンザ A 型 147 人 (47.6%)、インフルエンザ B 型 162 人 (52.4%) でした。

◆2018年第10週 患者報告数（疾病保健所別）、定点あたり患者報告数（疾病保健所別）、年齢階層別患者報告数（疾病別）

患者報告数（名古屋市）

2018年第10週（2018年3月5日～3月11日）

疾患 \ 保健所	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比*
★インフルエンザ	70	64	70	57	89	26	41	36	42	48	36	38	82	23	59	70	851	0.8	1.0
○RSウイルス感染症				3	3							3			2		11	1.4	1.1
○咽頭結膜熱		2							1			1			1		5	0.7	0.4
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	6	5	5	4		2	1	4	4	4	2	17	1	13	4	83	1.1	1.0
○感染性胃腸炎	31	3	15	11	21	13	20			4	46	15	7	9	18	27	240	1.3	0.9
○水痘			4	1			1						2	1	3		12	3.0	0.7
○手足口病													1				1	1.0	0.2
○伝染性紅斑															1	2	3	1.5	0.4
○突発性発疹	1	3		3	1								3	1	1	1	14	1.6	1.1
○ヘルパンギーナ																	0		0.0
○流行性耳下腺炎				1	2					1						1	5	1.7	1.2
△急性出血性結膜炎																	0		
△流行性角結膜炎				1													1	1.0	0.4
◇細菌性髄膜炎																	0		
◇無菌性髄膜炎																	0		
◇マイコプラズマ肺炎																	0		0.0
◇クラミジア肺炎																	0		
◇感染性胃腸炎（ロタウイルスに限る）							1										1	0.5	1.5
計	113	78	95	81	120	39	65	37	47	57	86	61	111	37	96	104	1227		

\*過去3年の同週の平均値との比

★インフルエンザ定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△眼科定点数	1		1	1	1		1	1	1				1		1	1	11		
◇基幹定点数			1				1			1							3		

★○△◇は定点種別を示す。

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況（名古屋市）

2018年第10週（2018年3月5日～3月11日）

疾患 \ 保健所	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均
インフルエンザ	14.0	16.0	14.0	14.3	17.8	6.5	8.2	7.2	10.5	12.0	9.0	9.5	16.4	5.8	14.8	17.5	12.2
RSウイルス感染症				0.8	0.6								0.8		0.5		0.2
咽頭結膜熱		0.5							0.3				0.3		0.3		0.1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.2	1.5	1.0	1.3	0.8		0.4	0.2	1.0	1.0	1.0	0.5	3.4	0.3	3.3	1.0	1.2
感染性胃腸炎	6.2	0.8	3.0	2.8	4.2	3.3	4.0			1.0	11.5	3.8	1.4	2.3	4.5	6.8	3.4
水痘			0.8	0.3			0.2						0.5	0.2	0.8		0.2
手足口病														0.2			0.0
伝染性紅斑															0.3	0.5	0.0
突発性発疹	0.2	0.8		0.8	0.2								0.6	0.3	0.3	0.3	0.2
ヘルパンギーナ																	
流行性耳下腺炎				0.3	0.4					0.3					0.3		0.1
急性出血性結膜炎																	
流行性角結膜炎			1.0														0.1

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	7	4	4
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

流行警報・注意報について

■ **太字の数字** は流行発生警報

■ **斜体の数字** は流行発生注意報

■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値（左表）に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。



年齢階層別患者報告数(名古屋市)

2018年第10週(2018年3月5日～3月11日)

疾患 \ 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ	1	7	26	30	31	39	62	49	52	43	44	115	38	48	52	60	55	42	30	27

疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上
RSウイルス感染症	3	2	3	3										
咽頭結膜熱		2	2				2	1						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	9	7	16	10	12	6	3	3	6	2	8
感染性胃腸炎		8	17	20	13	20	13	15	7	6	8	14	7	92
水痘		1	1	2	1		1		2	1	1	2		
手足口病						1								
伝染性紅斑							1	2						
突発性発しん		3	11											
ヘルパンギーナ														
流行性耳下腺炎			1		1		1	2						

疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	
急性出血性結膜炎																				
流行性角結膜炎														1						

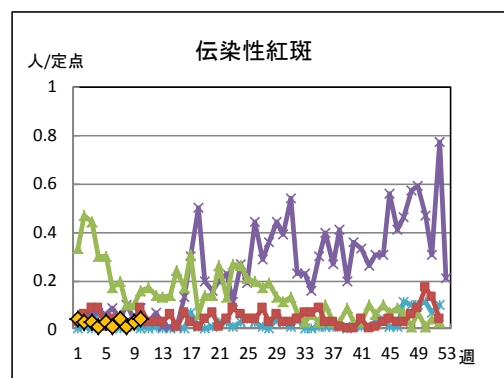
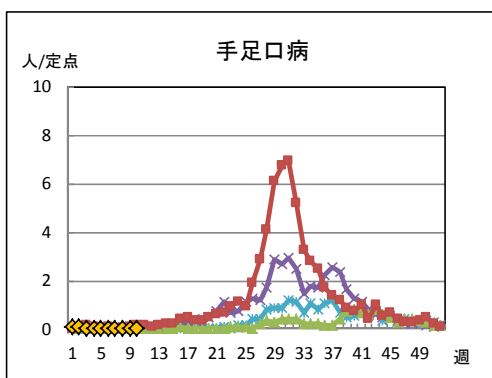
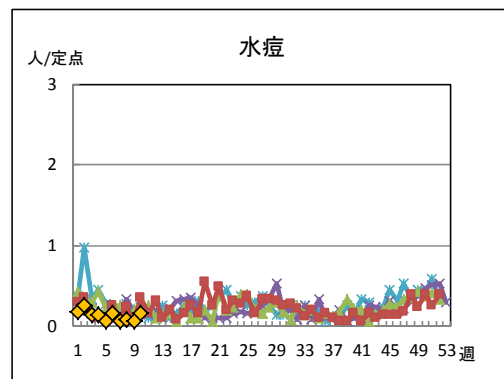
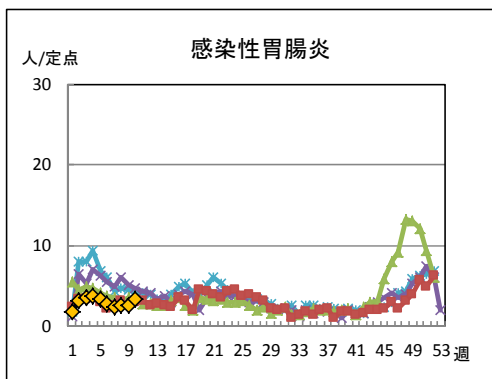
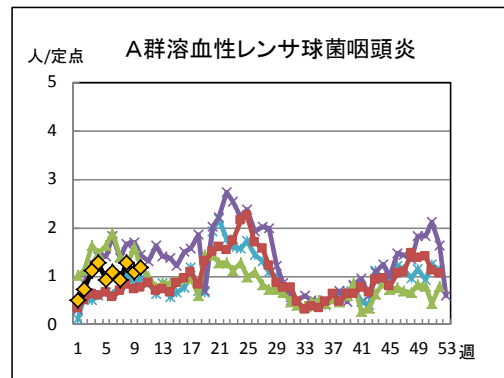
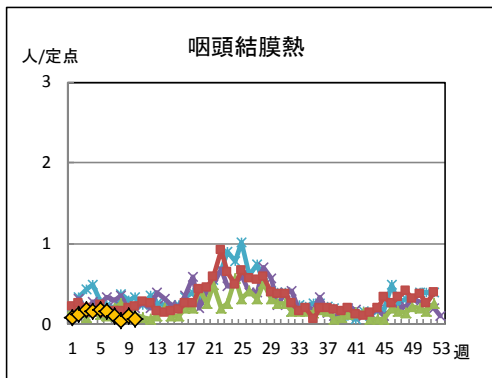
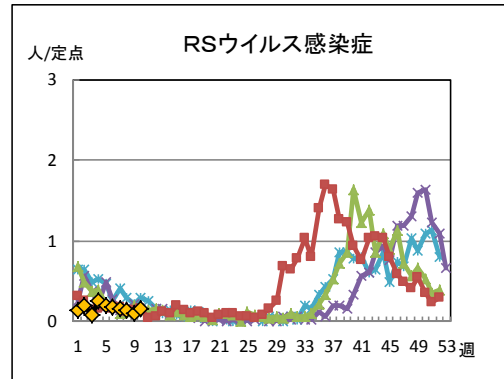
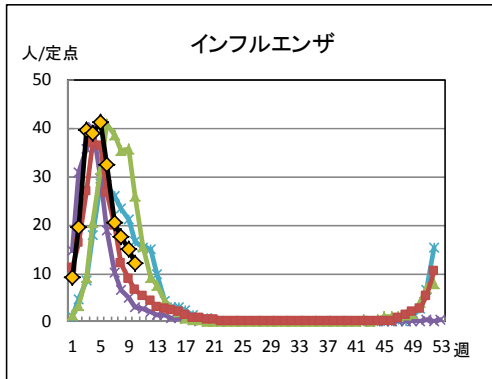
疾患 / 年齢階層	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上
細菌性髄膜炎																
無菌性髄膜炎																
マイコプラズマ肺炎																
クラミジア肺炎																
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			1													

〔インフルエンザ入院サーベイランス結果(基幹定点3カ所)〕

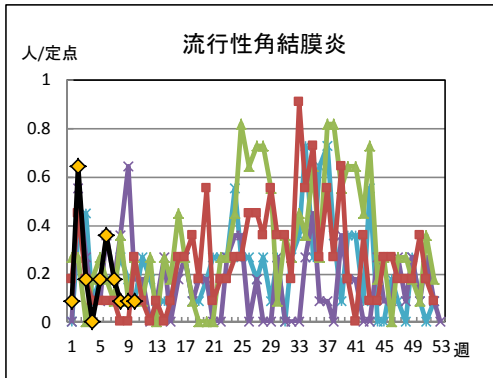
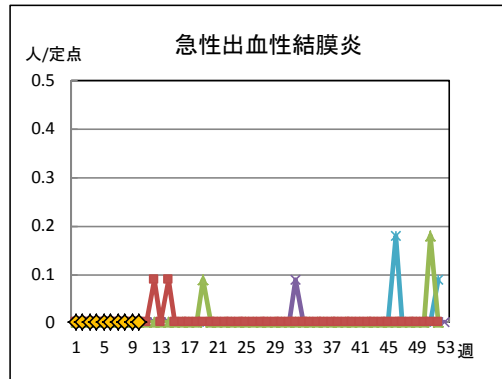
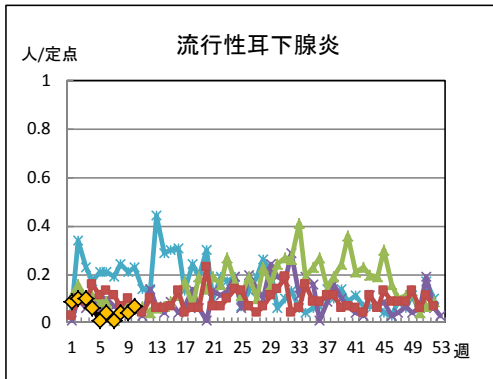
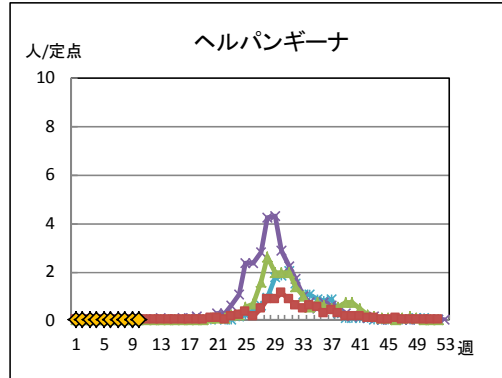
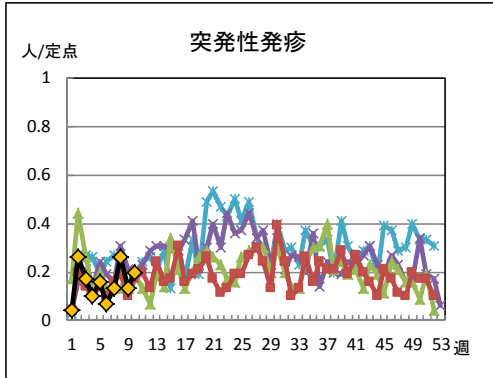
【2018年第10週:1件】 【2017/2018シーズン累計数:32件】

- 女性、61歳

◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの  
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2018年第10週まで



◆小児科・インフルエンザ・眼科定点医療機関からの  
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2018年第10週まで



◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2018年2月分〕

基幹定点数：3（西部医療センター(北)、名古屋第二赤十字病院(昭和)、名古屋掖済会病院(中川)）

表1.基幹定点報告、別患者報告数(名古屋市)

2018年2月

疾患 / 保健所	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2			2
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				0
薬剤耐性緑膿菌感染症				0
計	2	0	0	2

表2.基幹定点報告、年齢階級別報告数(名古屋市)

2018年2月

疾患 / 年齢階級	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90歳-	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症									2		2
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症											0
薬剤耐性緑膿菌感染症											0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2

◆ 性感染症について〔性感染症定点把握、2018年2月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

報告された患者数を性別で見ると、男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症および尖圭コンジローマの順に多く、女性では性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマおよび淋菌感染症の順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性77人、女性は37人でした。（表2、図1参照）

2018年2月分を年齢階級別に見ると、男性の性器クラミジア感染症は15歳から44歳および55歳以上の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は15歳以上の全ての年齢階級において報告がありました。性器ヘルペスウイルス感染症は30歳から44歳および50歳から54歳の年齢階級で報告があり、尖圭コンジローマは20歳から34歳および55歳以上の年齢階級で報告がありました。女性では性器クラミジア感染症は15歳から34歳および40歳から44歳の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は15歳以上の全ての年齢階級において報告がありました。尖圭コンジローマおよび淋菌感染症は20歳から24歳の年齢階級で報告がありました。（表2、図2参照）

表1.性感染症別患者報告数(名古屋市)

2018年2月

疾患 / 保健所	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
性器クラミジア感染症	1		3		3	20	6			8	5			5	2	1	54
性器ヘルペスウイルス感染症			1	3	1	6	1	1			3			4	2	2	24
尖圭コンジローマ						4	1			4						2	11
淋菌感染症	2				1	7	3			6				2		4	25
計	3		4	3	5	37	11	1		18	8			11	4	9	114

STD定点数	1		2	1	1	2	1	1		1	1	1		1	1	1	15
--------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2.性感染症年齢階級別患者報告数(名古屋市)

2018年2月

疾患 / 年齢階級	性別	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳-	計
性器クラミジア感染症	男性		2	4	7	8	5	6			1	33
	女性		3	12	3	2		1				21
性器ヘルペスウイルス感染症	男性					3	3	3		1		10
	女性		1	3	1	2	1	1	1	2	2	14
尖圭コンジローマ	男性			3	1	4					2	10
	女性			1							1	1
淋菌感染症	男性		1	4	3	4	2	2	4	1	3	24
	女性			1							1	1
計	男性		3	11	11	19	10	11	4	2	6	77
	女性		4	17	4	4	1	2	1	2	2	37

